様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２２０７
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３０８８７

研究課題名（和文）子育て支援における世代間関係構築のプロセスモデルとその実証的検討

研究課題名（英文）The Process Model of Building Intergenerational Relationships between Parents with Preschoolers and Their Supportive Person in the Childcare Support Center

研究代表者
加藤　邦子（KATO, Kuniko）

宇都宮共和大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：４０６１７７８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：子育て支援施設を利用する未就学児をもつ親（約1300名）を対象として，配偶者以外で育児を助けてくれる人とどのような関係を築いているか，関係構築がどのように親子関係に影響を及ぼすかプロセスを検討した。配偶者以外で育児を最も手助けしてくれる人が，親族の場合は，その関係が良好であるほど，友人と育児に関するコミュニケーションが多くなり，子育て支援施設で気軽に相談したり助けてくれる人との関係も良好で，親子関係が円滑化するというプロセスが検証された．一方配偶者以外で育児を助ける人が非親族か該当者がいない場合、子育て支援施設で気軽に相談したり助けてくれる人との関係を築き、親子関係を支える必要が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The data were collected at local childcare support centers in Japan (35 in the Kanto area and 16 in the Kansai area). The parents with preschoolers who used to use the centers were asked to answer a questionnaire from November to December in 2013. About a thousand and three hundered parents' respondents were analyzed.It is clarified that the case of relatives group indicates the higher the commitment to the person who helps parents most effectively increases frequency of communication about childcare with their friends and promote their commitment to the person who helps parents in the childcare support center, and improve commitment to their children. It is different from the case that the person who help parents most is one of non-relatives. It is the reason that the parents have the more living distance from their own parents indicated the more difficult feelings with the relationships among people who help them and their children.

研究分野：臨床心理学

キーワード：子育て支援　乳幼児　世代間関係　親族　非親族　コミットメント　親子関係

１．研究開始当初の背景

（１）IT 社会の到来，長引く経済不況，価値観の多様化などの影響を受け，子育て期の親の状況は，出産に伴う体の変化，新しい家族メンバーを迎えるための準備，慣れない養育が軌道に乗るまでの葛藤や不安など，負担感を抱きやすいことが明らかにされていた．加えて自分の親が近くに居住していない，就業中などの理由で親族による支援を受けらず，孤立するケースもみられた．これまでの育児研究は，夫婦に注目することが多かったが，牟田(2009)によれば，夫婦を家族の核とみなすことが，外部に対する排他性を強め，夫婦が子育ての責任を一手に担うような閉塞状況を招き，かえって家族の孤立を高めたという指摘がなされていた．

（２）子育て期は，過重負担のライフステージにあると考えられ，家庭への経済的支援，ワーク・ライフ・バランスの推進，父親の育児参加の促進など，家族をターゲットとした政策や提言が活発になされた．一方地域子育て支援拠点事業における支援者による援助，保育に欠ける乳幼児に対する保育者による保育，放課後児童クラブなど，専門家も含め，近所の人，友人など非親族が育児支援にかかわるような土壌が醸成されてもいる．子育て中の親は孤立しやすく，子育て広場・つどいの広場などの地域子育て支援拠点事業を利用し，スタッフの心理的サポートを入り口として人間関係を広げていく機会を得ている(加藤・飯長，2006）と予想される．日本全国で 6000 ヶ所以上の子育て支援拠点が整備され，地域の人々と関わりながら，他児やその親，高齢者などから育児支援を受けている実態もあるだろう．

（３）一方で子育て期の親と支援者との関係については，支援者の支援年数が長くなるほど、いまどきの親子に問題を感じることが示され（土谷ほか, 2002)，子育て期の親との間に葛藤が生じる事例も報告されていた（井上,2011)．

未就学児をもつ親は，社会的育児の広がりにつれて，血縁関係にない人々との間にも関係を形成するなど，複雑な人間関係の中で親として機能するようになると考えられる．したがって配偶者以外の人々に支えられて，親子関係を築くようになる可能性も考えられる．本研究によって，子育てをめぐる異世代間をつなぐ仕組みづくりについて検討し，家庭と地域の連携の方策の提示につなげることは現代的意義があると考えられた．

２．研究の目的

未就学児をもつ親が配偶者以外の親族・非親族との関係を築き，さらに子どもとの関係を維持する要因，そのプロセスについて，あらたなモデルを提示することで明らかにする．次に親の育児を支援する配偶者以外の親族・非親族との関係性について，肯定的側面と葛藤的側面の二側面から捉え，子育て期の親が，育児支援者との間に信頼関係を築きつつ，子どもとの関係を維持する要因を明らかにすることを目的とする．

３．研究の方法

（１）世代間関係を捉える概念を析出するために，世代間関係に関する実地調査，聴き取り調査を経て，「関係性を捉える概念」を析出し，妥当性について検討する．（２）配偶者以外の育児支援者との関係を築くことが親子関係を促進することにつながる仮説を検討し，親子関係を促すプロセスモデルを提示する，（３）調査項目の作成，（４）関東・関西の子育て支援施設の利用者調査実施（調査協力者：未就学児の母親 1148 名，父親 48 名)，⑤データの分析，結果から考察する．

４．研究成果

（１）育児支援者との関係性について，肯定的感情を示す『コミットメント概念（加藤,2007; 2009a;b;c;)』と葛藤を示す『関係による制約感（Strom& Strom，1993)』概念を中心に捉えられることを明らかにした．

（２）施設利用者の母親 1242 名，父親 48 名が『配偶者以外で最も育児を援助してくれる人』の続き柄は，親族（自分・配偶者の親，きょうだい）がいずれも 80%を超え，非親族（友人，専門家，近所の人など）は 20%未満を示し，親族に頼る親が多いことがわかった．

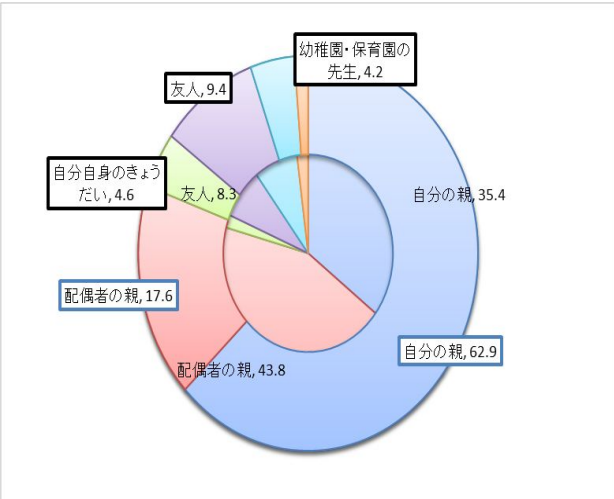


図 1. 子育て支援施設利用の母親(外円)と父親(内円)が選択した「最も育児を援助してくれる人」(%)

（３）配偶者以外で最も育児を援助してくれる人が親族の場合は，『関係による制約感』が非親族の場合よりも高くなり，非親族の場合は子どもへの『コミットメント』が親族の場合よりも低くなることが明らかになった．

（４）未就学児の親は自らの親にあたる異世代に支えられている一方で，子育てに奮闘する当事者である同世代を，ひろばで出会った気軽に相談できる支援者として挙げていた．

（５）気軽に相談できる「ひろば支援者」に対して高いコミットメントを示し，関係を構築していた．

（６）仮説的プロセスモデル（図 2）に最も手助けしてくれる人が親族とした母親のデータ(N=870)を投入したところ，最も育児を

手助けしてくれる人への『コミットメント』が高いほど，子育てに関するコミュニケーション頻度が高まり，その結果「ひろば支援者」への『コミットメント』，子どもへの『コミットメント』も高まるプロセスモデルが支持された．

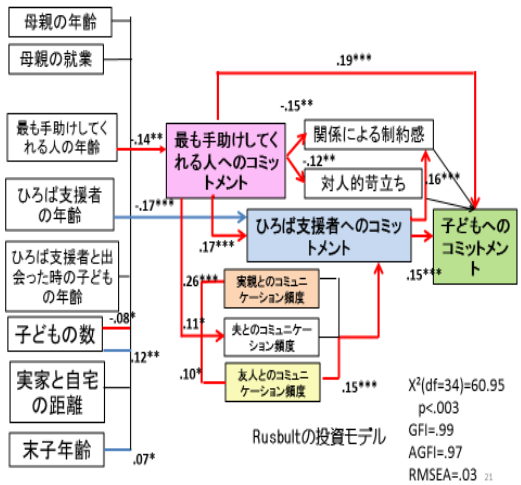


図 2. 最も手助けしてくれる人が親族とした母親のプロセスモデルの検討（赤線は有意なパス）

（７）仮説的プロセスモデル（図３）に最も手助けしてくれる人が非親族とした母親のデータ(N=180)を投入したところ，モデルの有効性が確認され，最も育児を手助けしてくれる人への『コミットメント』が高いほど，子どもへのコミットメントが高まること，「ひろば支援者」への『コミットメント』が高まることは支持されたが，ひろば支援者へのコミットメントの高さが子どもへの『コミットメント』を高めるというパスは有意ではなかった．

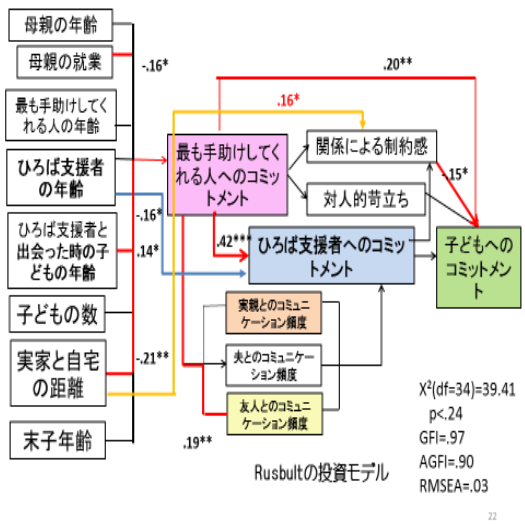


図 3. 最も手助けしてくれる人が非親族とした母親のプロセスモデルの検討（赤線は有意なパス）

（８）配偶者以外に手助けしてくれる人がいない利用者に対しては，子育て支援施設で実施する活動の中で，家族外の多様な世代同士の関係を構築することが必要であると示唆された．

以上より，関係への肯定的感情を示す『コミットメント』概念を用いた仮説的プロセスモデルは，ほぼ支持されることが確かめられた．

＜引用文献＞


井上清美，(2011).現代日本の母親規範と自己アイデンティティ　―ファミリー・サポート事業における相互行為を事例として,博士論文（お茶の水女子大).

加藤邦子・飯長喜一郎，(2006)．子育て世代，応援します―保育と幼児教育の場で取り組む“親の支援”プログラム，ぎょうせい．

加藤邦子，2007，父親，母親が子どもへのコミットメントを維持する要因分析，家族社会学研究,Vol.19．No.2:7-19，2007.

：2009a，　父親の子どもへのコミットメントを規定する要因―Rusbult の投資理論の拡張モデルを専業主婦家庭に用いて，PROCEEDINGS 08，お茶の水女子大学:37-47.

：2009b，“Factors affecting Japanese Fathers’ and Mothers’ Commitment to Children: Extension of Rusbult’s Investment Model”　PROCEEDINGS 05, Ochanomizu University :103-111.

：2009c，育児期の父親が子どもとの関係性を高める要因―フォーカス・グループ・インタビューの質的分析，PROCEEDINGS 08，お茶の水女子大学:23-35.

牟田和恵，2009，「ジェンダー家族のポリティクス―家族と性愛の「男女平等」主義を疑う」，牟田和恵編，『家族を超える社会学―新たな生の基盤を求めて』，東京：新曜社：67―89.

Strom，R．D.，& Strom，S．K.，(1993). GRANDPARENT STRENGTHS AND NEEDS INVENTORY，Grandparent，Parent，and Grandchild Versions.Bensenville,IL:Scholatic Testing Service,Inc.

土谷みち子・加藤邦子・中野由美子・竹田真木.(2002)．幼児期の家庭教育への援助―保育者の捉える子育て支援の方向性．保育学研究，41(1):12-20.


５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４件）

① Kuniko KATO & Katsuko MAKINO，The Process of Building Relationships between Mothers with Preschoolers and People who Help Their Childrearing in Japan．保育・教育・福祉研究，査読有り,第 13 号，2015.pp.1-9.

② 加藤邦子,「子育て期の親がひろば支援者との関係を築くための要因―栃木県の地

域子育て支援施設における調査から―」，保育・教育・福祉研究，査読有り，第12号，2014，pp.1－18

③ 牧野カツコ・日吉佳代子，オーストラリアにおける乳幼児保育の現状，保育・教育・福祉研究，査読有り，第 13 号，2015,pp.21～37

④ 牧野カツコ，アメリカの家庭科教科書の衝撃，教科書フォーラム，査読なし，No.12,2014，pp.91-94 中央教育研究所

〔学会発表〕（計　６件）

① 加藤邦子，子育て中の親が支援者との関係を維持する要因―首都圏における世代間関係，日本保育学会 67 回大会　口頭発表(大会論文集 P132)，2014 年 5 月 14 日，大阪総合保育大学.

② Kuniko KATO, Intergenerational relationships between adolescents and their grandparents in Japan，XVIII ISA World Congress of Sociology (国際社会学会 18 回国際大会)(P122)，２０１４年７月１５日，パシフィコ横浜

③ 加藤邦子，未就学児をもつ親が支援者との関係を築くプロセスの検討―子育て支援施設の利用者調査から，日本心理臨床学会第 33 回大会秋季大会論文集（p97）口頭発表，2014 年 8 月 24 日，パシフィコ横浜

④ 加藤邦子・牧野カツコ，地域子育て支援拠点の利用者が支援者との関係を築くプロセス―配偶者以外による支援に注目して，日本家族社会学会第 24 回大会自由報告　(P58-59)，2014 年 9 月 8 日，東京女子大学

⑤ Kuniko KATO & Katsuko MAKINO, The process of building relationships between mothers with preschoolers and people who help their childrearing in Japan, 2014 年 11 月, National Council on Family Relations 76 th Conference, Nov.19, 2014 at Baltimore, MD,

⑤ Kuniko KATO, The Impact of Building Relationships between Mothers with Preschoolers and Their Supportive Person in the Childcare Support Center on the Commitment to their Children in Japan, 2015.3.21., Society of Research on Child Development Biennial Meeting in Philadelphia, PA.

〔図書〕（計　２件）

① 加藤邦子・牧野カツコ・井原成男・榊原洋一・浜口順子編著，福村出版,「子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論」，２０１５，(P8-9,P145-160. P216-220.担当)総２２８ページ.

② 加藤邦子（分担執筆），第７章．養育力向上を目指した支援の実際．（pp.102～113)，青木紀久代編著，みらい,「実践・保育相談支援」　，２０１５，総１９１ページ

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕

「平成 24～26 年度科学研究費補助金基盤研究課題番号２４５３０８８７　研究成果報告書『子育て支援における世代間関係のプロセスモデルとその実証的検討』研究代表者加藤邦子」を平成 27 年 3 月に刊行した.

６．研究組織

(1)研究代表者

加藤　邦子（KATO Kuniko）
宇都宮共和大学子ども生活学部　教授
研究者番号：４０６１７７８４

(2)研究分担者

牧野　カツコ（MAKINO Katsuko）
宇都宮共和大学子ども生活学部　教授
研究者番号：７０００８０３５

井上　清美　(INOUE Kiyomi)
川口短期大学こども学科　准教授
研究者番号　３０５１７３０５

(3)連携研究者

間野百子　（MANO Momoko）
小田原女子短期大学　教授
研究者番号：　１０４０５０９５

藤原佳典　（FIJIWARA Yoshinori）
東京都健康長寿医療センター研究所
研究部長
研究者番号：　５０３３２３６７